

平成 30 年度 仙台市 防災 会議

議 事 録

I 開催日時

平成 31 年 3 月 19 日 (火) 14 時 00 分から 15 時 30 分まで

II 開催場所

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

III 出席者

会長 1 名・委員 (代理含む) 32 名 計 33 名

役 職	職 名	氏 名	備 考
会 長	仙台市長	郡 和子	
委 員	仙台市副市長	高橋 新悦	
”	東北財務局 局長	池田 潤	代理 米澤 裕樹
”	東北地方整備局仙台河川国道事務所 所長	奥田 秀樹	代理 佐々木 秀敏
”	東北経済産業局 局長	相樂 希美	代理 土橋 秀義
”	東北運輸局 局長	吉田耕一郎	代理 谷藤 耕治
”	仙台管区气象台気象防災部 部長	西尾 利一	代理 小野寺 優
”	宮城海上保安部 部長	川口 修	代理 廣松 怜
”	東北農政局 局長	鈴木 良典	代理 秋山 憲孝
”	仙台森林管理署 署長	齋藤 哲	代理 大沼 光広
”	陸上自衛隊第 22 普通科連隊 連隊長	大場 智覚	欠席
”	宮城県 総務部危機管理監	山内 伸介	
”	宮城県警察 仙台市警察部長	渡邊 政明	代理 伏見 節男
”	東日本旅客鉄道(株)仙台支社 執行役員仙台支社長	坂井 究	欠席
”	東日本電信電話(株)宮城事業部 取締役宮城事業部長	中村 浩	代理 伊藤 浩治
”	東北電力(株)仙台電力センター 所長	日野 邦光	
”	日本通運(株)仙台支店 執行役員仙台支店長	佐藤 武司	欠席
”	日本赤十字社宮城県支部 事務局長	本木 隆	欠席
”	日本放送協会仙台放送局 局長	等々力 健	
”	東日本高速道路(株)東北支社仙台東管理事務所 所長	佐藤 洋	
”	東北放送(株) 報道制作局長	今井 敦	
”	(株)仙台放送 報道局長	高荒 治朗	

〃	(株)宮城テレビ放送 取締役報道制作局長	佐藤みえ子	
〃	(株)東日本放送 取締役	斎藤 博明	
〃	(株)エフエム仙台 編成業務局長	松崎 靖子	
〃	仙台市医師会 会長	永井 幸夫	欠席
〃	宮城中央森林組合 代表理事組合長	赤間 長男	
〃	仙台市連合町内会長会 会長	菅井 茂	
〃	仙台市民生委員児童委員協議会 副会長	森 孝義	
〃	仙台市婦人防火クラブ連絡協議会 会長	八木 彌生	
〃	仙台商工会議所 女性会副会長	荒井美佐子	欠席
〃	(社福) 仙台市社会福祉協議会 会長	山浦 正井	欠席
〃	(社福) 仙台市障害者福祉協会 会長	阿部 一彦	欠席
〃	(公財) 仙台観光国際協会 理事長	村山 光彦	
〃	(公財) せんだい男女共同参画財団 理事長	木須八重子	
〃	(特非) イコールネット仙台 代表理事	宗片惠美子	
〃	エフエム仙台 防災・減災プロデューサー	板橋 恵子	
〃	宮城県消防協会仙台地区支部長	高橋 利一	
〃	仙台市消防局長	中塚 正志	
〃	〃 教育長	佐々木 洋	
〃	〃 危機管理監	佐々木 淳一	

IV 傍聴者

なし

V 議事次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 議 事
 仙台市地域防災計画の修正について
4. 報告事項
 平成 30 年度 仙台市の応援活動報告
 その他
5. 閉 会

VI 配付資料

- ・資料 1-1 平成 30 年度の主な災害対応状況について
- ・資料 1-2 仙台市地域防災計画の修正について
- ・資料 1-3-1 仙台市地域防災計画（災害救助法一部改正〔救助実施市指定〕）修正案
 新旧対照表
- ・資料 1-3-2 仙台市地域防災計画（共通編）修正案 新旧対照表
- ・資料 1-3-3 仙台市地域防災計画（地震・津波災害対策編）修正案 新旧対照表
- ・資料 1-3-4 仙台市地域防災計画（風水害等災害対策編）修正案 新旧対照表
- ・資料 1-3-5 仙台市地域防災計画（原子力災害対策編）修正案 新旧対照表
- ・資料 1-4 パブリックコメント実施結果及び仙台市議会における主な意見等
- ・資料 1-5 災害救助法の一部改正に伴う救助実施市の指定について
- ・資料 1-6 「防災重点ため池」ハザードマップの公開について
- ・資料 1-7 避難勧告等に関するガイドラインの改定（予定）について
- ・資料 2 平成 30 年度 仙台市の応援活動報告

Ⅶ 会議経過

1. 開 会

2. あいさつ（防災会議会長 郡市長）

3. 議長の選出

仙台市防災会議条例第3条の規定に基づき防災会議会長の郡市長が議長とされた。

4. 議事録署名委員の選出

議事録署名委員として、公益財団法人仙台観光国際協会 理事長 村山 光彦委員及びエフエム仙台防災・減災プロデューサー 板橋 恵子委員を指名した。

5. 議 事

(1) 仙台市地域防災計画の修正について

- ・資料 1-1 に基づき、事務局（仙台市危機管理室防災計画課長）から説明
- ・資料 1-2、資料 1-3-1、資料 1-3-2、資料 1-3-3、資料 1-3-4、資料 1-3-5、資料 1-4 に基づき、事務局（仙台市危機管理室防災計画課長）から説明
- ・資料 1-5 に基づき、事務局（仙台市まちづくり政策局政策企画課 地方分権・大都市制度担当課長）から説明
- ・資料 1-6 に基づき、事務局（仙台市経済局農林土木課長）から説明
- ・資料 1-7 に基づき、事務局（仙台市危機管理室防災計画課長）から説明

（発言要旨）

【議長 郡市長】

ただいまの説明について、意見等があれば発言をお願いしたい。

【宮城県危機管理監 山内委員】

救助実施市について補足する。これまで、県と市の担当者が何度も打合せを重ねてきた。こうした調整を踏まえ、資源配分計画に関して協定を結ぶことになり、4月1日に締結される。今後、県に国から正式な意見聴取があるが、知事が定例記者会見で発表した通り異議なしで回答する予定である。今後の課題は、実際に大規模な災害が起きた際に、協定に基づいた円滑な資源配分が行われるようにすることであり、実効性の高い訓練を通じて、具体的な対応を県と市で協力して確認していきたいと考えている。

【議長 郡市長】

これまでの協力に感謝申し上げ、今後の連携についてもよろしくをお願いしたい。

【東北電力株式会社仙台電力センター所長 日野委員】

質問、意見ではないが、資料 1-3-3 12/14 項に記載の大規模停電発生時の避難所開設について、改めて日頃の保守保全、停電発生の際は速やかな復旧に努めたいと考えている。

事務局よりブラックアウトの話があったが、東北電力の発電所は青森県から新潟県まで分散配分しており、東日本大震災の際には、新潟県の火力発電所は停止しなかったことから、エリア全域での停電とはならなかった。今後もライフラインを預かる電力事業者として、設備の保守保全に努めていきたい。

【仙台市連合町内会長会会長 菅井委員】

ダムの異常洪水時防災操作について教えてもらいたい。もし大倉ダムでこの操作をされた場合、広瀬橋までどれくらいの時間で水が到達するのか。また、9.11 の際、夜に消防車が周ってきて「避難してください」という呼びかけがあったがアパート内にいる高齢者には雨の音で良く聞こえなかった。高齢者は必ずしもテレビを見ているわけではないので、放水をするということを地域住民にどう連絡すればよいのか、このことについて考えはあるか。

【事務局 仙台市危機管理室防災計画課長】

一点目については、現時点で手元に資料がないため、ダムの管理者である宮城県に確認して連絡したい（※）。二点目については、本市では様々なツール、市ホームページ、L アラート、杜の都防災メール、各区の巡回広報車を使ってさまざま情報伝達を行い、そういった方々への伝達を速やかに実施したいと考えている。

※宮城県からの回答（会議後に確認）

大倉ダムで、異常洪水時防災操作を行った際の下流域における放流到達時間は、洪水の規模により異なるため、正確な時間を回答することはできない。

【仙台市連合町内会長会会長 菅井委員】

若い人はそういったツールでよいが、高齢者はそうものを持っていないため、簡単には動けない。こういった場合は、地域の方々に町内会から避難をお願いするような形が必要になってくるのではないか。この視点が全然ないと思うが、いかがか。町内会から高齢者に働きかける方策は考えているのか。

【事務局 仙台市危機管理室長】

デジタルの様々な伝達手段はあるが、ご高齢の方はなかなかそれが使えないということから、高齢者にも使えるようなハード面での整備を現在検討している。

委員ご指摘の点については、西日本豪雨の際の岡山県総社市の奏功事例がある。総社

市では、大雨が激しくなる見込みであることから、緊急の町内会長会議を開催し、首長より住民避難を町内会長に依頼し、犠牲者を最小限に留めることができた。この視点は重要であり、これらを含めて検討していきたいと考えている。

国のワーキンググループでもどうすれば避難してもらえるかが一番重要な論点となっている。まずは住民の方に自分の命は自分で守るということを認識してもらい、行政は住民が適切な避難行動がとれるよう全力で支援すると報告が出ており、こういったことが重要であると考えている。

【議長 郡市長】

人々の命を守るために何ができるのか、行政ができることはもちろんのこと、自主防災組織等を含めぜひお力添えをいただきたいと思う。この大雨対策に関連し、仙台管区気象台からお話を聞かせていただきたい。

【仙台管区気象台気象防災部部長 西尾委員（代理：小野寺幹事）】

事務局から避難勧告等のガイドラインについて話があった。レベル化に関しては、新年度早々に宮城県や仙台市に説明することになると思う。

また、今年は暖冬小雪傾向で推移しており、統計を取り始めた 1946 年以降、少ない方から 2 番目である。春先の水管理をしっかりとる必要があると思う。今年の 6～8 月は太平洋高気圧の張り出しが弱く、前線や湿った空気の影響を受けやすくなり、降水量は平年より多くなる可能性があり、大雨の備えと心づもりをしっかりとっていただきたいと考えている。

それから、この 3 月 14 日から台風の強度予想が 72 時間先から 120 時間先までの予測になる。市町村の警戒配備等、事前防災をこれまでよりも早く行えるようになると考えており、ぜひ利用していただきたい。

最後に、土砂災害の危険度分布の高解像度化だが、6 月 25 日から現在の 5 km メッシュから 1 km メッシュになる。市町村がどこに避難勧告等を出せばよいかの的確な判断の材料になるとともに、一般の方にとってもテレビ等で見ることができ、広報車や防災無線に頼らずとも危険を回避する行動がとれるようになると考えている。

【議長 郡市長】

台風の長期予報の件や、夏場は大雨の可能性が高まるという見通しの話があったが、改めてしっかりとした備えをしなければならないと思うところである。

【エフエム仙台防災・減災プロデューサー 板橋委員】

先日の防災フォーラムで、ハザードマップの見方などに関して細かい質問が出ていた。菅井委員がおっしゃったように、避難に関わる細かい情報が出れば出るほど、それをど

う避難する方々へ伝えるかが大きな課題であると感じている。ご高齢の方に関しては、近隣の方が訪ねて声掛けをするなどしなければ、本当の意味で住民の命を守ることにならない。連合町内会と仙台市が綿密な情報交換を行うことが重要だと考える。警戒レベルが5段階になることなど、どう住民が受け止めてどう行動したらよいか住民一人一人に伝わるよう、連携する場を設ける必要があるのではないかと。自らの命を守る行動をとることができる年齢層も限られることから、ぜひ考えていただきたいと思っている。

【事務局 仙台市危機管理室長】

共助の要である町内会の方々にも色んな場面で丁寧に説明しなければならないと考えている。各区において住民説明会を行っているが、今年度の新たな取り組みとして、ハザードマップの見方について町内会長やSBL等を対象とした説明会を開催した。こういったことを拡充していきたい。

一方で内容は複雑化してきており、例えば大雨の際の避難勧告では、河川氾濫、土砂災害、ため池の決壊、ダムの異常洪水時防災操作の4種類もあるため、何が原因で避難勧告が出ているのかしっかり伝えなければならないと考えている。

【(公財) せんだい男女共同参画財団理事長 木須委員】

今の議論は大変重要だと思う。宮城野区の区長をしていたとき、チリの遠地津波があり、宮城野区で各町内会にお願いしてお声掛けしていただいたが、お声掛けをしても逃げなかった方がたくさんいた。

また、東日本大震災の際は、電話することができない中、町内会長の方が逃げない方々を助けようと避難した後に戻り、会長様がお亡くなりになった事例がある。市民の方がこういったことで犠牲になるのはあってはならないことだと思う。そうするとやはり、日常からの市民啓発、いかにして災害時に自分の身を守るのか、これを丁寧にやっていくことが、市民自らが命を守ることに繋がると思う。仙台市にはこのような取り組みの強化をお願いしたい。

【議長 郡市長】

震災の出来事については、風化と言われる中で、いかにそれを伝えていくかが課題となっており、取り組みを行っているところである。委員の皆様の中でも、折に触れ、防災訓練等において、取り組んでいただけるとありがたいと思っている。今日はマスクミの皆様も出席いただいているが、何かお感じになっていることがあればご発言いただきたい。

【(株) 仙台放送報道局長 高荒委員】

3.11にNHKをはじめ各社が特別番組を報道しているほか、これを含め、普段から防災に関して各社が取り組んでいるところである。

地震や津波は予測ができないところがあるが、大雨、洪水、台風に関しては気象台から情報が発信されるため、テレビ、ラジオをつけていただきたい。有益な情報、避難の情報をどう即時発信できるかは各社が努力しているので、予測ができる災害のときにはテレビ、ラジオ等で情報を収集していただければと思う。

現在は各区に防災情報が出るが、より細かな防災情報が出せるとよい。青葉区に洪水、土砂災害と言われても、青葉区のどこなのかわからない。気象台、国交省と調整が必要だとは思いますが、より細かな情報が出せればよいと考えている。岡山県でも倉敷市に情報が出た際、真備町の方はピンと来なかったと聞いている。これは報道だけでは解決できないので、いろいろと調整し、啓蒙していければと思う。

【事務局 仙台市危機管理室防災計画課長】

より細かい情報が重要だという点は、おっしゃる通りである。例えば現状では、青葉区の町丁目毎に避難勧告等を発令しているが、可視化など、他にも取り組みはあると思うので、報道機関の皆様とも連携させていただきたいと思う。

【(株)仙台放送報道局長 高荒委員】

町丁目毎の避難勧告等の発令前の情報が重要だと思う。「この地域に土砂災害のおそれがある」という前の情報がないと、高齢者の方が準備できないので、いかに予防的な警報を出してあげられるかが重要だと思う。

【副議長 高橋副市長】

昨日太白区で防災シンポジウムがあり、富山大学の先生からダムの決壊の話があった。地震や津波は避難のきっかけがあるが、大雨の場合はいつ自分達が逃げればよいのかきっかけがなく、報道でのお知らせが重要だということだった。避難にどのくらい時間が必要なかがわからないと逃げられないし、逃げ方も横なのか縦なのかさまざまある。これは本市でもっと考えなければならぬが、報道、周知、危機の意識を高めることは我々だけではできないので、町内会の方のお力を借りしないといけないと思っている。

また、宮城県さんにお話ししたいが、ダムの放流に関して、サイレンの音は聞こえるが放送している言葉は聞きづらいという話があった。報道など、我々も含め、周知の仕方を工夫しないといけないと思うので、一緒に頑張っていきたいと思う。

【NPO法人イコールネット仙台代表理事 宗片委員】

今、避難の情報が多彩になってきており、それをどう判断するかで混乱する部分が出てきている。

今回、防災重点ため池の話があったが、指定は 5 か所で済むのか。仙台市内にはどれくらいため池があり、それらの危険性については調査等が行われたのか。また、住民に説明会を行ったときどんな住民の反応があったのか。さらに、水位計はどのようなスケジュールで設置されていくのか伺いたい。

【事務局 仙台市経済局農林土木課長】

現在 5 か所 4 地区で防災重点ため池という位置づけにしている。仙台市内には約 500 箇所のため池がある。国から、見直しを指示されており、この中で宮城県と調整して新たな防災重点ため池の検討を行っている。今年の夏前には、新たな防災重点ため池の周知ができると思うが、現時点でははっきりとしたことは申し上げられない。

説明会での反応だが、参加者は延べ 110 名で、質問の大まかな内容として、「自分の家がどれくらい浸水するのか」が複数あった。これは本市ホームページのせんだいくらしのマップで細かいところまで確認することができる。一方、ご高齢の方の中には、せんだいくらしのマップを見つけられない方もいらっしゃるので、地元の消防団にもお願いし協力いただいているところである。水位計と監視カメラについては、新年度は愛子ため池に設置する。セキュリティの問題があるので、公表の方法については検討中である。

【議長 郡市長】

長年、婦人防火クラブで活動なされてきた八木委員から発言はあるか。

【仙台市婦人防火クラブ連絡協議会会長 八木委員】

婦人防火クラブは、住宅防火に係る知識習得と、万が一に備えた災害対応能力を身に付け、クラブ活動を通じて地域の方に防火・防災意識の普及啓発を図る組織であり、東日本大震災の際も、いちはやく立ち上がり、様々な救命活動を行ってきた。また、震災の体験を原稿とし、朗読のつどいを 7 回行ってきた。これからも震災を風化させず、みなさんに語り続けていきたいと考えている。現在、婦人防火クラブ会員は 11 万人を超えている。これからも関係団体の協力を得ながら、地域防災力の向上に努めていきたい。

東日本大震災以降、毎年地域防災計画の見直しが行われていることは非常によいと思っている。一方で、地域防災計画では自助、共助の取り組みも推進していることから、地域の方々にしっかり伝わる取り組みをお願いしたい。

【議長 郡市長】

今回はいろいろとご意見をいただき、ありがたく思う。今回の地域防災計画の修正案に関して、ここを修正すべきだという意見はなかったと思うが、仙台市地域防災計画は原案のとおり承認することとしてよろしいか伺う。

【委員一同】

異議なし。

【議長 郡市長】

原案のとおり承認とする。

6. 報告事項

(1) 平成 30 年度仙台市の応援活動報告について

- ・資料 2 に基づき、事務局（仙台市危機管理室参事）から説明

【議長 郡市長】

ただいまの報告について、質問等があれば発言をお願いしたい。

(質問等なし)

【議長 郡市長】

予定している報告事項は以上であるが、あらためて本日の会議全体を通じてご発言があればお願いしたい。

【エフエム仙台防災・減災プロデューサー 板橋委員】

今回このような会議の形をお考え下さったことで活発な意見交換をすることができたので、事務局に感謝したい。

報告にもあったが、これだけ災害が発生すると支援する方も大変だと思う。派遣される職員も、残る職員も健康に留意していただきたいと思う。それから、木須委員から「いかに日常の市民の防災啓発が大事か」との発言があったが、先日の仙台防災未来フォーラムでは多くの方が参加しており、毎回参加者が増えている印象があり大変心強く思う。ただ、テーマにある「マルチステークホルダー」の意味が分かりづらく残念であった。もう少しどなたでもわかりやすいテーマを掲げていただきたいと思う。

最後に、私どもが作ったハンドブックを配布いただき感謝する。29 頁以降には防災ワークブックを新たに追加し、小さい子供でも学べる内容になっている。皆様でも活用する機会があれば、まとまった部数を提供できるので、ぜひ役立てていただきたい。

【議長 郡市長】

ありがとうございました。以上で議事の一切を終了する。

7. 閉 会

以上、事実と相違ないと認める。

平成31年4月18日

仙台市防災会議委員

村山 光彦



平成31年4月17日

仙台市防災会議委員

板橋 恵子

